世代超え憩いの場に

鬼北 交流施設「チカナガぷらっとホーム」完成

北宇和高校の生徒確保を後押しする多世代交流施設「チカナガぷらっとホーム」が鬼北町近永に完成し、４日に落成式があった。最大28人が居住できる寮機能に加え、地域の憩いの場を目指す。

北宇和高の新たな寮も 生徒確保を後押し

同校は２０２２年から生徒を全国募集し、県内で唯一の馬術部に入るため志望する県外出身の生徒も多い。同校によると、全校生徒２４５人の1割弱が県外から入学し、馬術部員12人中９人が自宅以外から通っている。自宅通学困難な生徒は町が整備した「北辰寮」（定員14人）を利用しており、本年度入学者は新施設完成を待つため、町が借りた民家で生活してきた。

新施設は鉄骨2階建て延べ床面積約９７８平方㍍で、2階に個室があり、それぞれベッドや机、たんすなどを備える。1階には食堂やキッチン、大浴場のほか、教室や講座などに使える多目的スペースは、町民が自由に出入り可能。学校林のヒノキを内装材に活用しており、暖かで明るい雰囲気となっている。

町が学校魅力化支援の一環で同校近くに整備し、施設工事費約６億１３７０万円。財源にクラウドファンディング（ＣＦ）や過疎債を活用した。12人が５日から入居する。

落成式には約40人が出席しテープカットで完成を祝った。兵頭誠亀町長は「さまざまな世代の憩いの場や活性化拠点として、大きな役割を果たすと期待している」とあいさつ。入居生徒の代表2人が「新しいことに挑戦する心を忘れず、ここでの生活を一日一日大切にしていく」と誓った。

式後に施設内を見学した出席者は「きれいやな」などと感心しきり。宇和島市津島地域出身の西泰虎さん(15)は「外観が黒くてかっこいい。おしゃれで設備がそろっていて、過ごしやすそう」と入居を心待ちにしていた。

（山口暖乃）

「チカナガぷらっとホーム」の完成を祝い、テープカットする鬼北町関係者や入居する北宇和高生

教室や講座のほか、住民との交流にも活用される多目的スペース